



琉球大学教員観察日記と能をつかんとするもの

私の学部と大学院で受けてきたあらゆる講義の担当教員の観察日記を紹介し、私が大学で学ぶ上で役立った考えかたについて述べていきます。

【琉球大学教員の生態】

◇ 琉球大学教員観察日記一日目

講義の終わりに質問をした。担当教員の〇〇先生は心なしかどこか嬉しげに見えた。

◇ 琉球大学教員観察日記X日目

今年から大学院に入ったため、大多数の大学卒業者より多く講義を受けていることになる。こうした経験に裏打ちされた確信ともいえる大学教員の生態は以下の通りである。

- ①「質問をすると喜ぶ」
- ②「オフィスアワー（簡単に言うと教員が授業外での質問に答えるため設けている時間帯のこと）ではさらに嬉しそうにしてる」

疑問に思ったことだけでなく、考察を話すなどでもかまいません。一つあるいは複数の物事に深く精通している大人から得る知識というのは色あせません。私の琉球大学における青春とは40歳以上年上の教員(以下、師)と古文書を読んだり、質問や考察を述べて返ってきた返答から知識を獲得・強化していくという換言すれば学恩と言っても過言ではないものでした。私にとっての師に相当する教員が新入生のあなた方にもきっとできるであろうことが羨ましくてたまりません。さらに複数名師がいても困ることはありません。大学教員の生態に則ってどんどん知識を吸収し応用してください。

【能をつかんとするもの】

ところで、大学教員への質問などはそれなりに高度に専門的な質問でなければ、呆れられるのではないかと気おくれしてはいませんか。結論を言うと百万が一、稚拙な質問で教員から呆れられることがあっても大丈夫な心構えをしましょう。例えば兼好法師『徒然草』の「能をつかんとするもの」という話は能を習得しようとする場合、大抵の人はある程度の技量を身につけてから上級者に交じろうとするが、こうした場合は大成せず、未熟な頃から上級者に交じる者は馬鹿にされながらも成長し、ゆくゆくは大成すると説いています。さらにこの一連の段階は能だけでなく、あらゆる事に通ずるというメッセージ性のある結びは大学で知的好奇心の為すがままに動いた私のバイブル的存在です。稚拙な質問の常習犯である先達（私）がいますので、ご安心ください。少しでも知りたい・分かりたいと思ったことは教員（教員ほどではありませんが、TAも参考になるかもしれません。図書館2階のサポートデスクに鎮座してます）に聞きましょう。皆様の知識欲満たされる四年間があることを願っています。



(地域共創研究科 M1)